

みなまた 第17巻
元気な
 事業所ファイル

新栄合板工業 株式会社

所在地 水俣市袋赤岸海 50 番地
 設立 昭和 50 年 8 月
 従業員数 185 人
 事業内容 合板の製造・販売



山林を放置すれば、枯れて倒木になり、二酸化炭素を排出するだけですが、伐採した木を合板加工し、住宅などに使えば数十年間は木材として二酸化炭素を貯めておくことができます。合板は、持続可能な社会づくりにも一役買っていると言えます。

平成 28 年に発生した熊本地震

主原料である原木は、熊本県宮崎県、鹿児島県産のスギ・ヒノキを使用。製造している合板の品種は 50 種類以上あり、迅速に顧客のニーズに答えられるようにしています。製造した合板は九州内で販売しており、九州地域での大きな地産地消を実現しています。

当事業所は、合板の製造から販売までを一手に担っている九州唯一の合板メーカーです。水俣工場その他、顧客の需要に対応するため、平成 30 年には大分県に新工場の建設を始め、令和元年 5 月から稼働を開始しました。



代表取締役
古澤 憲司 さん

回転させながら原木をむき、薄い単板に加工します。単板を何枚も重ね合わせたものが合板です。



生産量は、12ミリの厚さの合板に換算すると月に約 80 万枚。商品の在庫も約 1 カ月分確保しています。



良い製品の製造には、働きやすい環境づくりが重要です。当事業所では、社員がさまざまな設備の操作などに対応できるように、業務で必要な資格の取得をバックアップしています。「地域密着型の企業を目指す」という理念のもと、社員が働きやすい環境を整え、より良い製品を提供していきます。

の際には、県への義援金の他、被災地域に合板 5 千枚を提供しました。熊本地震以降は住宅の建て方に関心が高まっていることから、耐震対策に有効で、住宅の屋根や壁、床に使われる「構造用合板」と呼ばれる合板の需要が増えています。



地元の木で未来をつくる!!

「合板（ごうはん）」って何だろう？
 それは、家や学校などの建物をしっかり支えるために使われる、強くて丈夫な板のことです。水俣市にある「新栄合板工業株式会社」では、この合板をつくっています。私たちの会社のすごいところは、合板の材料に「全て九州の木材」を使っていること。水俣やその周辺の山で育った木を使うことで、地域の森林を守りながら、木材をムダなく活かしています。
 工場では、木を削って、乾かして、何枚も重ねて接着し、強い合板に仕上げます。たくさんの機械と、職人さんたちの目と手で、丁寧に合板を作っています。
 みなさん一緒に水俣で働きませんか!?



HP